

第 16 回 豊川流域圏自然再生検討会 主な意見と対応

重要種に係わる情報等については、原則非公開とさせていただきます

◆ 豊川自然再生事業の概要（ヨシ原編）

委員意見	対応
豊川放水路のヨシ原再生の施工幅は出水に影響が無いように計画されていると思われるが、令和 5 年 6 月の大規模出水でも影響はなかったか。環境面の評価はヨシ原面積が拡大しており、順調ということで良いが、出水後にヨシが流失、倒伏していないようなので出水への影響が懸念される。	- 洪水痕跡水位などを確認しており、流下能力は問題ない。 (前回回答) - 引き続き、治水面に配慮しながら、ヨシ原再生を進める。
景観の住民評価の一例として事業評価アンケートの結果を示しているが、景観が良くなったとする意見は自主的に出たものか。	- 景観の評価は、自由回答で得られた自主的な意見である。 (前回回答) - 令和 5 年度は、自然再生箇所を活用した地域連携イベントを企画し、参加者を対象に、ヨシ原等の生態系保全への関心についてアンケートを行った。 (資料-2 P.9)

◆豊川自然再生事業の概要（干潟編）

委員意見	対応
・近年のアサリ着底稚貝調査によって豊川河口におけるアサリの生態が明らかになってきたので、アサリにとって河口干潟はどうあるべきかを検討してみてはどうか。	・引き続き、三河港湾事務所と連携して調査を実施し、結果を解析している。 (資料-4)
・干潟の施工については、二枚貝の生息場面積の問題が大きいと考えており、中州の堆積した土砂を活用して干潟面積を増やすことは意義がある。自然再生箇所だけではなく、三河湾全体とのつながりを意識して調査結果を解析する必要がある。	・干潟再生については、豊川河口を面的にとらえ、アサリ着底稚貝の生息にとって必要な地盤高や底質の分布を解析、評価していく。
・施工箇所の空撮写真について、漁業者の関心が高い海側の範囲を含めた写真があると参考になる。	・撮影定点から 360 度写真撮影を行った。 (資料-3 参考資料)
・中州の自然に高くなっている箇所は、波浪の影響で形成された意味のある地形である可能性も考えられる。堆積した砂を押し出して広げればよいというものではなく、もう少し丁寧に見ていく必要がある。	・令和 5 年度に当該箇所を試行的に掘削し、地形変化をモニタリングした。 (資料-3 P. 10) ・引き続きモニタリングを実施していく。
・出水によって干潟の土砂がどの程度入れ替わって、現在の地形を維持しているのかを考えるとともに、保全したい生物にとって有効な生息場となっているのか、また生息場を増やすためにはどういう補助的な施設が必要なのかを検討する必要がある。干潟の再生にとって、土砂の入れ替わりは重要なことであり、入れ替わりがどの程度あるのかを把握する調査が必要である。	・干潟の土砂動態を把握するため、干潟の土砂変動量を解析し、洪水のピーク流量や潮位との関係を解析した。 (資料-3 P. 11) ・干潟地形の変化に寄与する流速や流量を把握するため、洪水時の水面変化を連続観測中。 (資料-3 参考資料)

◆豊川におけるアサリ着底稚貝調査の概要

委員意見	対応
令和4年秋季～令和5年春季の着底稚貝は、着底初期の餌料環境の悪化や、冬季の低水温、その後の出水が重なって、生残が悪かったと解釈できる。豊川浄化センターの管理運転による窒素の増加放流が令和4年11月から実施され、その結果プランクトンは増加したが、着底初期の時期とは異なっていたため、必要となる餌料時期とミスマッチが生じたと考えられる。	餌料環境のモニタリング調査を継続し、プランクトンと着底稚貝の生息状況の関係を分析、考察した。 (資料-4 P.13～17)